



しんめい動物病院長
(富山市高田)

鷹島 慎太郎

ペットの爪切りは基本的なお手入れの一つですが、皆さんはどうされていますか。

犬は本来、体重をつま先立ちの状態を支えており、爪に均等に体重がかかり、地面をとらえるようになっています。若くて健康な犬であれば、散歩で外を歩くことによってすり減るため、爪切りはあまり必要ありません。

筋力低下や痛みのためにつま先立ちを維持できなくなると、爪にかかる体重のバランスが崩れることで接地面が減り、爪が伸びやすくなります。そのため散歩の量が低下した高齢犬や、体重増加によ

爪切り

高齢の犬・猫 定期的に手入れ

り関節炎を起こした犬などでは爪切りが必要になります。例外としては、体重が軽く運動量が少ない小型犬種では爪がすり減りにくいので、定期的に爪切りをします。猫ではどうでしょう。鋭く切った爪を自宅で切っている方も多いと思いますが、「若い頃は爪切りができたのに、年を取ったらガンコになって怒りっぽくなり、できなくなった」という方もいるのではないのでしょうか。



ウサギも定期的な爪切りが必要

犬と違って散歩に連れ出すことがないので気付きにくいのですが、高齢猫のほとんどは加齢からくる関節炎を患っています。犬と同様に運動量が落ちた場合、猫特有の行動である爪とぎをしなくなった場合は、痛みを抱えている可能性が高いです。怒るのは爪切りのために関節を曲げたり伸ばしたりすると痛みが出るからです。爪を切った時の、パチンという衝撃がさらに痛みを引き起こします。しかも、猫の爪は手のひら側に丸く伸びるため、伸びすぎを放っておくと手のひらに刺さってしまいます。痛い思いをする前に爪切りしてあげることが大事です。

当院ではセキセイインコなどの小鳥の爪切りを頼まれることもあ

ります。小鳥の爪の伸びすぎは、止まり木の太さが合っていない場合が多いです。全ての爪に均等に当たる太さの止まり木は存在しません。それぞれの爪に応じて複数の太さの止まり木を用意する必要があります。ただし、体重の軽い文鳥などでは、どうしても爪が伸びてしまいます。自宅で切るのが難しい場合は、動物病院で切ってもらいましょう。

爪切りぐらいで病院にかかるのはもったいないと思う方もいるかもしれませんが、お手入れで定期的に通院することで、病気の早期発見につながる可能性があります。ペットの健康長寿を目指しましょう。

毎月第1土曜掲載